

平成20年度 宮畠遺跡公開講座

第1回

縄文人のくらしと宮畠縄文むら、 そして和台縄文むら

和台遺跡出土の「人体文土器」
(県指定重要文化財)



日時 平成21年1月17日(土)
午後2時～4時 場所 福島市市民会館
第2ホール

■コーディネーター

岡村 道雄 (杉並の縄文人)
(宮畠遺跡整備指導委員会副委員長)

■パネラー

斎藤 義弘 (福島市教育委員会文化課)
新井 達哉 (福島市教育委員会文化課)



宮畠遺跡のシンボル「直径90cmの柱を使った建物」のあと



コーディネーター 岡村 道雄

(おかむら みちお)

東北大学文学部卒。同大学院、同大学助手、
東北歴史資料館、文化庁文化財部記念物課、
奈良文化財研究所を経て、現在、奥松島縄文
村歴史資料館名誉館長。
自称、杉並の縄文人。



史跡公園
'じょもひあ宮畠
イメージ図'



市制施行100周年記念事業「宮畠未来フェスティバル」

第2回

縄文人の足跡を活かす

日時 平成21年2月7日(土)
午後2時～4時 場所 福島市市民会館
第2ホール

■コーディネーター

岡村 道雄 (杉並の縄文人)
(宮畠遺跡整備指導委員会副委員長)

■パネラー

大平 好一 (福島県教育厅文化財課主幹兼副課長)
柴田 俊彰 (福島市商工観光部長)
斎藤 義弘 (福島市教育委員会文化課)

第1回「縄文人のくらしと宮畠縄文むら、そして和台縄文むら」

縄文文化の始まり

旧石器時代

- 最終氷河期（約11万5千～1万年前）の時代
- 最も寒い時期は現在より年平均気温が5～7度低い
- 氷河が地球の約30%。海面が約100メートル以上も下り、アジア大陸とは北で陸続き
- 福島市の約2万年前の地層からカラマツ、チョウセンゴヨウマツ、エゾマツなどを発見

- 約15,000年前からの温暖化による環境の変化
 - ・ほぼ現在の日本海や陸地の形ができた。
 - ・約8000年前に現在の気候になり、日本海側で冬に大雪になった。

●西日本で常緑広葉樹林、東日本で温暖帯落葉広葉樹林の形成

縄文時代の始まり

- ◆広葉樹林の広がり → 堅果類の増加（身近な食料の増加）
 - ・煮沸による堅果類のアツ抜き技術の獲得 土器の出現
 - ・堅果類=堅い殻、水分含量の少なさ → 腐敗しにくい

- ◆冬期間の食料貯蔵用に貯蔵穴が出現
- ◆四季を通じて植物を基調とした食料の安定的確保
- ◆家をたて、集落周辺で食料を確保

生活の大きな変化（定住）



福島市市古の土器（縄文時代草創期）
南面訪原遺跡（松川町）

南の縄文文化の始まり

- ◆約13,000年前に南九州で豊かな森の形成
- ◆約12,000年前に石鎌、すり石、石皿と土器の出現

北の縄文文化の始まり

- ◆約10,000年前までは針葉樹中心の環境
- ◆東北地方・中部高地では無文土器が出現
- ◆温暖化による広葉樹の森の広がり
- ◆石鎌、敲石、すり石の増加



敲石と台



スリ石と石皿



石鎌

「この頃、少し暖かくなってきたようだ。自分が生まれた頃にくらべると、吹上浜の海岸もだいぶ内陸に入り込んでいる。そういうえば、このあたり一帯の植物も、広葉樹が多くなってきたような気がする」

秋が来るとシイやアカガシなどの木の実を探った。最近では、とくに木の実の収穫が増え、人手が足りなくなるほどだ。炉穴で薪製にして保存食料とする魚やシカ、イノシシの肉と一緒に、冬に備えて貯蔵した。

炉の一隅には土器が置かれ、アカガシをベースにした粥状のものが、ブスブスと音を立てていた。

気候が暖かくなって木の実が多く採れるようになってから、栄養価の高いこれらデンプン質の食べ物を腹一杯食べられるようになったのは、本当にうれしいことだった。

今では土器は、木の実をゆでてアツ抜きをするには欠かせない道具で、温かく汁があり、しかも柔らかくて食べやすいうま味のある効果を作用することが可能になった。また煮ることで、殺菌効果もあり、消化や吸収も良くなる。年寄りの母や、3歳になってようやく離乳したシシの二女にとっては最適な調理法だった。

*「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋

縄文人の食生活

収穫のとき

秋も深まると、一気に収穫のピークを迎える。

クリやクルミ、サマツモドキやシイタケなどのキノコ（後期になって、祭りに供えられたらしいキノコ形土製品の形から、数種を食用としていたことが推定できる）、また（考古学的な証拠は少ないが）、ヤマノイモやユリ根などを、主に女たちが手分けして採集はじめた。これらのかき入れ時は11月ごろまで続いた。

秋は、一年のうちで種類、量ともに一時期に集中して収穫期、旬を迎えるため、冬に向かって保存食料を加工・貯蔵する多忙な時期であった。多量に採れたクリ・クルミは、地下に掘った貯蔵穴で冬を越した。また長期保存分は、家の中の火櫃の上で乾燥したり、掘立柱の高床倉庫に納めた。

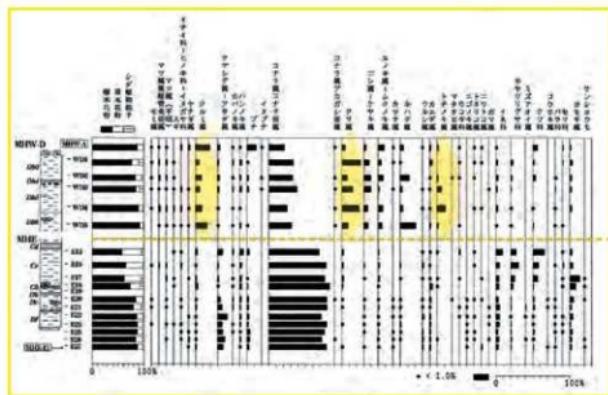
*「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋

妻と2人の子供たちは、男たちが仕事をしている間に、ゆでて乾燥してあったドングリをスリ石で粉にする仕事をしていた。板石を用いた石皿の上に置き、くぼみを持った嵌石で碎く作業だ。スリ石や嵌石は、手ごろな砂岩など、丸い礫を川原から拾ってきて用いた。

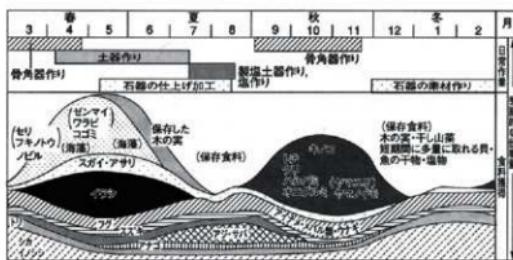
そろそろ食事の準備にとりかかる時間だ。掘った坑に円窓を焼いて放り込み、蒸し焼きにしたイモや木の実、昨日捕ったイノシシの肉や魚をその上に置く。さらに焼いた円窓を載せて土を掛け、30分ほど置くと石蒸し料理が出来上がった。

今日は、二家族そろって久しぶりのごちそうだ。ほとんど肉だけを蒸し焼きにした旧石器時代と異なり、縄文時代になると、木の実やイモ類も蒸すため、熟効率が良いすり鉢状に掘った坑の中で、石蒸し料理をするようになった。

*「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋



宮畠遺跡の花粉分析結果



縄文人の四季の暮らし（仙台清里浜貝塚西煙地点、岡村道雄作成）

日常の作業内容と各季節に何を狩猟・採集するのかを、1年間のカレンダーにしたもの。動物と植物質食料との割合は不確実だが、縄文人の収穫率・畜糞同位体比分析や、日本列島と同緯度に住む現代の狩猟・採集民の食料割合からみると、西煙人はシカ・イノシシ・植物質食料にくらべて、やや魚介類を多くたべていたのではないかと思われる。（ ）内は推定。

縄文人の食生活の痕跡

- 骨や歯に栄養障害はほとんどなく、でんぶん質の付着による虫歯の例
- 焼製と塩漬け
- パン・クッキー・かりんとう状の食物
- 木の実ベースの「オヤキ」
- クリ・クルミ・トチノミの管理栽培
- マメ類などの栽培

琵琶湖の栗津湖底第3貝塚

- トチ・シイ・イチガシなどの堅果類が59%
- シジミが19%
- フナ・コイ・ナマズなどの魚類が14%
- シカ・イノシシなどが9%

リーダーとまつり

満月の日の祭り

秋の満月の日には例年、陸奥湾岸沿いに住むいくつかの氏族が集まり、それらの連合の長のいる三内丸山で2日間にわたる祭りが行われる。

これら各氏族のなかでも陸奥湾奥に位置する三内丸山の氏族は、交通・交易の要衝としてにぎわう中央集落を形成していた。

そして津軽海峡の北、北海道南部に分布する氏族と秋田・岩手両県の北部の氏族たちを含めて、共通の文化・伝統・習俗などを持っていた。これら各氏族の拠点集落はお互いに、日常的な物語を中心に交換し、交流も盛んだった。各氏族とも言語は違うものの、会話が通じる程度の共通性がある部族らしさまとまりを形成していた。いわば、「円筒土器文化のクニ」ともいえる地域であった。

※「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋



復元された三内丸山遺跡（青森県教育委員会提供）

威圧感ある大型掘立柱建物

道の行く手には掘立柱建物が両側に並び、手前の北側（右側）には、子どもの墓地があった。ここには、死産した子や乳幼児の遺体が入れられた多数の土器（幼児蓋棺、埋設土器とも呼ぶ）が埋められている。その左には、高さ2メートルもある大きな盛土があり、その向こうには、もっと大型の掘立柱建物がそびえている。アカメのムラではない、威圧感のある建物であった。

※「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋

祭りとムラの集團組織・附録

そこには陸奥湾周辺の5つの氏族が、それぞれ独特の衣装や装身具を着けて集合していた。広場の中心に立つ大型建物を取り巻くように集まっている各氏族の代表を、さらに三内丸山の全員、およそ300人ほどが取り囲んだ。

祭りの場では、出自や性別、年齢階層によって並ぶ位置が決められていたが、各集團は固定的かつ身分的なものではなかった。男たちが集團で狩りに出かけるときは、いつもキツネの牙に孔を開けたペンダントを首からつり下げた男がリーダーとなり、魚捕りはまた別の男がリーダーになるなど、時と場合によって、その分野を得意とするものが集團を統率した。

※「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋

宮畠縄文人の晚期のむら

母と娘の死

母は、長年にわたる移動生活と不安定な食生活のために、40歳という年齢よりは早くに老け込んで死であった。

サルとシシの家族は、家の上の斜面の昨年死んだ父の墓の隣に、母を埋めることにした。まず直径約1.2メートル、深さ30センチの楕円形の穴を掘り、その中に木の皮にくるんで丸く縛った遺体を入れた。

今年の冬は、ことのほか寒かった。風邪を引いたサルの娘は、高熱を出した2日目の夜、あっけなく死んでしまった。科学的な薬もなく、もちろん医者もいない。細菌に弱く、体力のない子どもたちの死は日常茶飯事だった。5、6歳まで生き延びる確率は3、4人に1人ぐらいで、女が難産や早産で死んだり、けががもとで死ぬ人も多かった。15歳まで生きた人の平均余命は、男女ともに15年から20年で、40歳まで生存した人は少なかった。

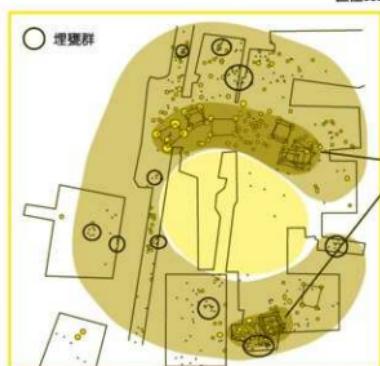
※「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋



掘立柱建物



直径90cmの圓名柱



晩期のむら



里浜貝塚の埋葬
(幼児の骨が入っている)



埋葬群
(幼児の墓)

宮畠縄文むらの掘立柱建物

市制施行100周年記念事業「宮畠未来フォーラム」



私が考えた「直徑90cmの柱を使った建物」の発表



私のまちの掘立柱建物の発表
(青森市・鹿角市・小矢部市)



直徑90cmの柱を使った建物跡

私が考えた「直徑90cmの柱を使った建物」

- 集落を一望する物見やぐら
- 日本人の心の拠所である神社のシンボル鳥居の原形
- 祈りの台
- ごとの葬儀のための建物
- 農作物の保管や土偶を保管・乾燥する建物
- 集会所や祈りの場、祭壇

小学生が考えた「直徑90cmの柱を使った建物」

- 神の家
- 偉い人が集まつていろんなことをするところ
- みんなに何か(危険)を知らせるとこ
- むら全体でおまつりをするところ
- 偉い人を招く特別なところ
- 普通の家
- ごものがなくなった時の寺
- 偉い人が住むところ

謎その1 「直徑90cmの柱を使った建物」のまとめ

- 太い柱は一番阿武隈川よりのところにあり、突出した太さであるので、祈りの場と考えることもできる。
- 位置と大きさが重要で、他の建物とは突出して高いものであったと思う。
- 阿武隈川がすぐそばを流れていたということから、当時は舟で物資を運んでいたので、物流の港的なものがあった可能性もある。こちらから見る場所でなく、向こうから見える場所に建てたのではないか。
- 当時、宮畠縄文むらの象徴的な建物であったことはまちがいない。

日本の縄文時代晚期のむら

- 寒冷化に伴う東日本的小規模分散型集落
- ・中期末に大規模な集落から小規模集落に
- ・縄文時代後期からトチノミ利用の拡大
- 東北縄文人の関東・甲信地方への移住
- 東日本縄文社会での祭祀の発達
- 東北地方南部、北陸地方での掘立柱建物の発達

三内丸山の衰退(縄文時代中期)

「およそ300年ほど前、オオクマの祖先は三内丸山集落で氏族連合の長をしたことがあった」と言い伝えられていた。

しかし、その後三内丸山は急速に衰え、集落を維持することがむずかしくなっていった。

集落内で最も新しく開拓された近野地区に一集団だけがとどまり、他の集団は青森平野沿いの尾根筋や谷沿いにすみかを求めて分散していった。

※「縄文の生活誌 改訂版」岡村道雄著から抜粋

縄文時代晚期の宮畠縄文むらの全国的な位置づけ

杉並縄文人のメッセージ

晚期の宮畠遺跡は、中央の広場を囲んで掘立柱建物が並び、北西の一角には太い柱の高い建物があった。それぞれの建物の周りには乳幼児を埋葬した多くの土器棺(埋甕)があり、小規模ではあるが土器捨て場(送りの場)があった。東北地方南部での、当時の集落の典型的な姿や祈り・祭りの道具など、当時の文化の様子をよく残している。

宮畠縄文むらと和台縄文むら

○宮畠縄文むら（中期）

宮畠遺跡の焼失住居

- 燃えにくい土屋根住居が46棟のうち22棟焼けている
- 屋根材や柱を焼きつくしている
- 全国でも例がない家の焼け方と焼けた家の多さ
- ◆意図的な放火が行われている。
- ◆2棟に1棟が焼かれている。（2棟に1棟は焼かれない）
- ◆原因は不明
- 他では認められない宮畠縄文むら独特のこと



宮畠遺跡の焼けた家

遺跡名	調査住居数	焼失住居数
縄文時代中期		
宇輪台遺跡	9	1
愛宕原遺跡	13	1
獅子内遺跡	11	1
月崎遺跡	19	0
縄文時代後期		
弓手原A遺跡	11	0
小峯遺跡	11	0

福島市内の焼けた家の数

○和台縄文むら

縄文時代中期のむら

- 230棟の竪穴住居の調査
- 広場と掘立柱建物、その周囲に竪穴住居群・貯蔵穴群、そして捨て場

史跡指定の理由

広場を中心に竪穴住居と掘立柱建物、貯蔵穴などからなる縄文時代中期末葉ころの拠点的な大規模集落で、出土遺物の種類や内容が豊富であり、当時の生活や生業、精神生活など縄文時代を知る上で重要。

- ◇生 活：集落構成、生活道具、装身具
- ◇生 業：クリのDNA分析、183号住居での木の実、動物の骨
- ◇精神生活：土偶等の道具、人体文・狩獵文土器、183号住居での祭祀行為

しかし、焼けた家は発見されていない！



重なり合う竪穴住居跡

この土地を三内ムラの人々が占拠するにあたって、雑木林を切り払い、中央部は削って平らにされた。こうした土地造成と計画的な施設配置が行われていらい、整備の手は常に加えられ、継続維持されてきた。

クリ・ウルシの林以外に、オニグルミ・キハダ・マタタビが植えられ、カエデ・ニレ・トネリコが生え、カエデはやや色づき始めていた。下草にはカヤツリグサ・ヨモギ・ススキなどイネ科植物が見え、林を切り聞いた日当たりの良い斜面には、春になるとゼンマイ・ワラビなどが群がって生え、貴重な食料源になっていた。

※「縄文の生活跡 改訂版」岡村道雄著から抜粋

宮畠縄文むら(中期)と和台縄文むらの全国的な位置づけ

杉並縄文人のメッセージ

縄文時代中期末の東日本では、各地の集落が整うとともに大規模になった。特に和台遺跡は、この地域の大規模な拠点集落の典型を示している。なお、同時期の宮畠遺跡は、多くの竪穴建物（住居）を焼いて解体処分していた。全国でも竪穴建物を焼いた様子や実態を、最もよく残すまれな集落である。

第2回 「縄文人の足跡を活かす」

【じょーもびあ宮畠での活用】

<p>屋外展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ○掘立柱建物、埋甕 ○竪穴住居、敷石住居 ○土器捨て場 <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆見学 ◆学校教育 	<p>縄文の森、園路沿いの花、湿地</p> <ul style="list-style-type: none"> ○木の実（クリ・トチノキ・クルミ、ドングリ）、落ち葉 ○園路沿いの花：ヤマザクラ、レンギョウ、トサミスキ等 ○水辺の花：セキショウ、ハナショウブ、ミソハギ <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自然学習 ◆遊び学習 ◆散歩・憩い ◆写真撮影、絵画などの趣味 ◆ウォーキング等の健康づくり
<p>芝生の広場</p>	
<p>○広々とした芝生の空間</p> <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆遊び学習 ◆遠足 ◆市内団体主催のイベント ◆文化活動の発信（コンサート等） ◆町内会、育成会行事 ◆東部地区での活用 ◆福島工業団地での活用 ◆「じょーもびあ」まつりなど 	<p>○コンセント、給水設備</p>
<p>ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> エントランス ○アート的空间 <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ミニコンサート等 ◆展示会 	<p>多目的活用地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ○広場 ○炊事施設 ○遊具施設 <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆遊びの場 ◆散歩・憩いの場 ◆育成会行事 ◆芋煮会、ピクニック
<p>ホール、体験工房</p> <ul style="list-style-type: none"> ○映像機器 ○作業テーブル ○調理機能 <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆講座の開催 ◆市内団体研修会の開催 ◆縄文体験、縄文食づくり ◆学習及び活動の場 	<p>A 区北</p> <ul style="list-style-type: none"> ○縄文の森 ○縄文の川 <p>【活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆縄文の森づくり ◆写真撮影会 ◆昆虫観察会 ◆ホタル見学会 ◆遊びの場 ◆散歩・憩いの場



活用面に関する理念（文化庁「史跡等整備の手引き」）

- ①史跡の価値を学び理解する場としての活用
- ②市民の文化的活動及び憩いの場としての活用
- ③まちづくりと地域のアイデンティティの創出
- ④地域との連携による活用（地域資源の活用、地域づくり）
- ⑤文化的観光資源としての活用

具体的にはどんなこと？

理念を実現するには？

じょーもびあ宮畠の活用イメージ

行きつけの史跡公園「じょーもびあ宮畠」

気軽に利用できる史跡公園

- 福島にも三内丸山と同じ時期にむらがあったんだ。
- 宮畠縄文人を知ろう。
- じょーもびあ宮畠に客を案内しよう。
- じょーもびあ宮畠に家族で、サークルで行こう。
- じょーもびあ宮畠で何かをしよう。集まろう。
- じょーもびあ宮畠で福島をPRしよう

そして

観光？

まちづくり

これまでの宮畠遺跡活用のとりくみ

平成20年度宮畠遺跡活用事業

- 宮畠遺跡出前授業（理念①）
- 宮畠縄文探検隊（理念①）
- 和台・宮畠縄文遺跡まつり（理念①・④）
- 宮畠縄文まつりin四季の里（理念①・④）
- 市政見学会、ふるさと学びカレッジ等（理念①）
- 宮畠遺跡公開講座（理念①）
- 宮畠縄文塾（土器づくり：理念①）

市制施行100周年記念事業「宮畠未来フェスティバル」

- 宮古市・荒川区・川崎市小学生と福島市小学生の交流
- 宮畠未来フォーラム「宮畠縄文むらの謎を考える」
- 宮畠未来広場
 - ・アトラクション
(陸平縄文太鼓保存会(茨城県美浦村))
太鼓保存会 マーチィングバンド)
 - ・縄文体験、縄文ゲーム、シカ肉試食・マスクかみ
 - ・飲食物提供、物産販売
- ※市内団体の協力による運営

じょーもびあ宮畠開園へ向けた組織つくり

「じょーもびあ宮畠の活用を支える組織」（名称は今後検討）

○学術的活用

- ◆公開・発信・活用グループ
- ◆ふれあいボランティア
- ◆縄文塾
- ◆公募による個人

○公園としての特性による活用

○誘客の取り組み

東部地区協力会

◆東部地区的団体

福島工業団地

立地企業協力会

◆工業団地立地企業協議会

じょーもびあ宮畠協力会

◆市内各種団体

まちづくり 文化活動 観光 広報・宣伝
地域振興 都市間交流 環境保護 等

2. 杉並縄文人からのメッセージ

○縄文遺跡の活用

みなさんが来て、縄文の森や自然に触れ・感じながら、縄文時代に遊び、楽しみ、いこい、くつろいでください。時には縄文祭りもしましょう。また、お客様を連れて来て、自然を育てて、調和して、豊かにくらした、地元の祖先・縄文人の自慢をしてください。